

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



APE031-P25

会場: コンベンションホール

時間: 5月25日 10:30-13:00

南極観測における海底地形調査 Submarine topographic surveys in Japanese Antarctic Research Expedition

泉 紀明^{1*}, 太田 晴美², 三浦 英樹³, 野木 義史³, 田中 喜年¹
Noriaki Izumi^{1*}, Harumi Ota², Hideki Miura³, Yoshifumi Nogi³, Kitoshi-Tanaka¹

¹ 海上保安庁, ² グローバルオーシャンディベロップメント, ³ 国立極地研究所
¹JCG, ²GODI, ³NIPR

日本南極地域観測では東南極氷床変動を明らかにするため陸上において地形地質の調査が継続されてきた。しかしながら海洋の地形調査は遅れており、東南極において詳細な海底地形調査が行われた海域は少ない。南極海の大陸棚周辺の地形発達や氷床変動を考える上で詳細な海底地形を知ることが陸上と同様に重要である。

第51次日本南極地域観測では新「しらせ」により初めてマルチビーム音響測深機による海底地形調査が行われた。調査は連続砕氷航行時や砕氷航行時にも行い、面的な地形データを日本隊として初めて得ることができた。厚い氷に閉ざされていたリュッツォホルム湾内の定着氷縁内においても、砕氷航行を行うことでデータを得ることができた。その結果、リュッツォホルム湾沖大陸棚上やケーブダンレー沖の大陸棚上では、冰山による特徴的な侵食地形、氷床下で形成された巨大スケールの氷河性線状構造、あるいは大陸斜面上のガリーが見出された。